

# イギリス・アメリカ相互交流に関する ディスコース研究

研究代表者 高橋正平

## 1. 研究活動の概要

本プロジェクトは、大航海時代以降今日に至るまで相互に影響しあってきたイギリス・アメリカ両国を社会的・文化的な角度から考察を加えることによって、その相互影響の関係を明らかにすることをその目的としている。

具体的には、(1)イギリス人によるアメリカ植民 (2)文学作品に見られるイギリス人のアメリカ観とアメリカ人によるイギリス観から研究を進める。

平成16年度の研究計画は、(1)に関してであり、ジョン・ダンに於ける説教の修辞学について論考をまとめ (高橋)、コットン・マザーの説教研究にも着手した (菫沢)。(2)に関しては、今後の研究課題であるが、C.Dickens, Oscar Wilde, Fanny Kemble, Mark Twain Washington Irving, Henry James 等が研究対象となってくる。

## 2. 研究活動の成果

1

- (1) 高橋正平「Lancelot Andrewes とジェームズ一世— The Gowrie Conspiracy 説教と The Gunpowder Plot 説教を中心として」(『人文科学研究』第114輯, 平成16年)
- (2) 高橋正平「Thomas JamesのJesuites Downefallにおけるジェズイット批判について」(『言語文化研究』第10号, 平成16年)
- (3) 高橋正平「ジェームズ一世の「忠誠の誓い」とロバート・パースンズの『カトリック教徒英国人の判断』—ロバート・パースンズのジェームズ一世への反論について—」(『人文科学研究』第116輯, 平成17年)

2 金山亮太「ユートピアとしての『ミカド』」

『英語青年』第150巻第3号 (平成16年6月号), pp.146-149 研究社

- 3 「現代アメリカにおけるキリスト教平和主義」(『比較宗教思想研究』第5号(平成16年), pp.25-40)
- 4 平野幸彦「エドガー・アラン・ポー『短章集』翻訳プロジェクト序説」(『新潟大学言語文化研究』10号(平成16年12月))
- 5 コットン・マザーの説教については、葦沢が修士論文で作成中である。